令和２年度

丹波の森研究所活動報告

報　告　書

令和３年３月

（公財）兵庫丹波の森協会　丹波の森研究所

目　　次

はじめに

１　令和２年度調査研究・活動報告

１-１　地域課題解決に向けた調査研究……2
（1）令和２年度集落の再生・活性化方策の検討
（2）地域再生プロジェクトチーム会議

１-２　地域づくり支援事業……30
（1）地域づくりアドバイザー派遣
（2）丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム関連事業プロデュース業務

２　受託事業

２－１　丹波地域の花と緑の啓発イベント開催業務……35

２－２　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務
（実施計画および中長期計画策定支援）……37

２－３　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務
（活動評価、計画調整および情報発信支援）……39

２－４　丹波地域における移住および二地域居住等現状分析業務……41

【資料編】

報告書
１　集落の再生・活性化方策の検討　報告書
２　丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム関連業務プロデュース業務
３　丹波地域の花と緑の啓発イベント開催業務
４　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務
（実施計画および中長期計画策定支援）
５　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務
（活動評価、計画調整および情報発信支援）
６　丹波地域における移住および二地域居住等現状分析業務
７（参考）丹波篠山市福住地区の戦略的移住推進モデル事業

はじめに

丹波の森研究所は、「丹波の森構想」（人・自然・文化・産業の調和した丹波地域づくり）を推進するシンクタンクとして、また地域活動の支援組織をめざして、平成８（1996）年、財団法人丹波の森協会（現、公益財団法人兵庫丹波の森協会）によって設置されました。

丹波の森研究所の主たる業務は、地域づくりにおける相談、アドバイス、情報提供、学習会などを通じた地域づくりの支援のほか、丹波の森づくりに関する調査研究、講演や報告会などを通じた啓発・普及、行政の施策・事業に関するアドバイザー協力を行っています。

平成 30（2018）年には、「丹波の森宣言」（1989 年 9 月）から 30 年となり、「丹波の森づくり 30 周年記念シンポジウム」が開催され、「これからの丹波の森づくり」における新たな目標が提案されました。丹波の森研究所でもこれを契機として、「丹波の森づくりの推進にあたり地域課題解決に向けた調査研究」を継続研究テーマとし、「集落の再生・活性化」や地域の資源でもあり魅力でもある自然環境を「生物多様性の保全」の観点から地域づくりに活かしていこうと考えています。

■丹波の森研究所　所員　（令和３年３月現在）

研究所所長	角野　幸博（丹波の森公苑長兼務）
研究所次長	大垣　至康（丹波の森協会事務局長）
主任研究員	門上　保雄
特任研究員	上甫木　昭春
登録研究員	上岡　典子
	横山　宜致
	片平　深雪
	小橋　昭彦
	出町　慎
	谷垣　友里
	門上　幸子
	垣内　敬造
	宮川　五十雄

1　令和２年度調査研究・活動報告

1-1 地域課題解決に向けた調査研究

（「令和２年度集落の再生・活性化方策の検討」報告書参照）

（1）集落の再生・活性化方策の検討

＜その１＞Ａ：小規模集落化に伴う丹波地域の地域環境の保全再生方策の検討

Ａ－１）研究の目的と内容

近年、人口減少や少子高齢化などにより、小規模集落化が顕在化している。丹波地域においても、地域の約 17%が小規模集落となっており、早急な対策が求められている。小規模集落再生のためには、人的資源および地域資源の活用に向けた検討が必要である。特に、人的資源としてのUJIターン者にも選ばれる地域環境をいかに継承し得るかといった課題に対して、人材定着のための地域環境の魅力化と再生方策の検討が必要とされる。　本研究は、丹波地域における小規模集落化再生に向けた基礎情報を把握するために、地域環境の魅力性の発掘と意識評価を実施し、人材定着のための地域環境の魅力化と再生方策の検討を行うことを目的とする。研究内容の詳細は、下記①～③の通りであるが、今年度はコロナ渦の影響を受け、①の調査研究に留まった。残りは、次年度引き続き実施する予定である。なお、調査対象地域は、丹波篠山市福住地区および丹波市神楽地区の２地区とした。

①地域環境の魅力性の抽出と実態調査

丹波の森研究所で昨年度実施した調査結果を踏まえ、調査対象校区を２校区選定し、調査対象校区および丹波地域の魅力性に関わる基礎データを文献調査にて収集整理する。そのデータを基に、地元住民へのヒアリングや現地確認調査により、対象スケール（市、校区、集落）にも着目しつつ地域環境の魅力性を抽出・整理する。地域環境の魅力性として、地域に受け継がれてきた資源（自然資源、歴史資源、林産物、農産物など）と、地域での行事・活動（生業、祭り、伝承など）を整理し、過去から現在への変化も把握する。

②地域環境の魅力性に対する地元住民とUJIターン者の意識の把握

地域環境の魅力性に対する、調査対象校区の地元住民およびUJIターン者の意識をアンケート調査し、地域環境の魅力性に対する認識度や重要度を評価し、地域再生に資する地域環境の魅力性の今後の活用のあり方などを把握する。

③地域環境の魅力化に向けた保全再生方策の検討

上記①②の結果を踏まえ、地域環境の魅力化に向けた保全再生方策（地域の伝統的な知恵

を現代的に活用するための方法、人材、仕組みなど）を検討する。また、UJI ターン者と地元住民による連携プロジェクトに向けた検討を行う。

Ａ－２）地域環境の魅力性の抽出と実態調査

（１）文献による地域環境の魅力性の抽出

下記に示す文献を使用し、福住地区および神楽地区における地域資源および行事・活動の抽出作業を実施した。抽出・整理した結果は、資料編としてまとめた資料 1 および 2 の表に示す通りである。

福住地区：

篠山市歴史文化基本構想（資料編），平成 23 年，篠山市教育委員会編集・発行

神楽地区：

神楽の郷お宝 BOOK，2020 年，一般財団法人神楽自治振興会集・発行

福住地区では、計 153 件の地域資源および行事・活動が抽出された。抽出に使用した文献が文化資源を扱う性質が強いこともあり、社寺、旧跡・遺構・遺跡等がそれぞれ 30 件以上抽出され、美術工芸品も 20 件以上挙がった。なお、福住地区では、後述する「福住の魅力発掘ワークショップ 2020」で本結果を使用するため、東部・中部・西部の３エリアに分割した整理も行った。一方、神楽地区では、計 176 件の地域資源および行事・活動が抽出された。本地区では、自然環境が 49 件と最も多く、次いで社寺が 34 件挙がった。

両地区ともに、社寺をはじめとする歴史的資源が数多く抽出されたことが特筆される。また、福住地区では、伝統的建造物群保存地区などの街並みや、祭りの造り山といった美術工芸品などの地域資源が特徴的といえる。一方の神楽地区では、自然環境の豊かさを示す地域資源が特に多くみられ、両地区の地域特性が今回の結果に強く表れているといえる。

（２）地元住民へのヒアリングと現地確認

上記（1）の地域資源等に関する地元住民へのヒアリングと現地確認を 2020 年 6 月 28 日に実施した。各地区で、福住地区まちづくり協議会や神楽自治振興会のメンバーをはじめとする地元住民の案内により、福住地区では旧福住小学校、住吉神社、熊野新宮神社などの地区を代表する地域資源を視察した。神楽地区では旧神楽小学校、神楽の郷交流センター、集落の駅神楽、愛菜館といった地区の拠点施設のほか、銚子ヶ水、浄丸の滝、移住者が名付けたハート形の山並みなどの自然環境に関わる資源を視察した。

旧福住小学校内の展示（福住）

住吉神社住之江の庭（福住）

熊野新宮神社（福住）

八朔祭の造り山紹介板（福住）

銚子ヶ水（神楽）

浄丸の滝（神楽）

ハート形の山並み（神楽）

愛菜館（神楽）

（3）魅力発掘ワークショップの開催

福住地区および神楽地区における地域資源および行事・活動のさらなる整理のため、住民向けの「魅力発掘ワークショップ」を企画、実施した。各地区における実施内容は以下の通りである。

1）福住の魅力発掘ワークショップ

■日時　2020 年 9 月 19 日（土）　13 時～15 時 30 分

■会場　旧福住小学校体育館

■参加者　計 32 名（地元居住者 21 名、移住者 3 名、地域外 1 名、スタッフ 8 名）

■進め方（参加者への案内事項）

・福住地区を下記の3つのエリアに分け、3テーブルで福住の魅力を話し合います。

東部エリア：安口西・安口東・西野々・下原山・中原山・奥原山

中部エリア：福住下・うと木・福住中・福住上・川原・本明谷

西部エリア：安田・藤之木・幡路・二之坪・箱谷・小野新・小野奥谷

・各自が所属するエリア内で、①皆さんが自慢できる宝物と感じる資源、②これからも大切にしたい行事や活動について、それぞれ5個程度、選んだ理由とともに、付せん（事項の見本）に書き出してもらいます。

・事前にお配りしている福住の地域資源・活動リストも参考にしてください。

・できるだけご自身がお住まいの集落とエリアに限定して書き出してください。

・各テーブルに進行係と記録係（学生）が入ります。

・最後に、テーブル内で議論した結果を、全体に向けて各 5 分程度発表してください（各テーブルで発表者を決めてください）。

■タイムスケジュール（目安）

13：00～13：05　開会挨拶・趣旨説明（5 分）

13：05～13：15　ワークショップの進め方の全体説明（10 分）

13：15～13：18　テーブル内で自己紹介（3 分）

13：18～13：30　福住の魅力を付せんに書き出す（12 分）

13：30～14：50　テーブル内で一人一人発表＋地図に貼り付け（80 分）

14：50～15：05　全体で結果発表（15 分）

15：05～15：10　閉会挨拶・総括（5 分）

■議事録　　資料３に各テーブルの議事録をまとめた。

中部エリアの結果

西部エリアの結果

東部エリアの結果

ワークショップでの協議の様子

各テーブルの発表風景

■福住地区におけるワークショップの結果とりまとめ

ワークショップで出された意見をとりまとめ、資料４「福住地区 WS による大切にしたい地域資源と行事・活動」として整理した。地域資源と行事・活動は、「自然」、「歴史・文化」、「生業」、「つながり・拠点」の４つのカテゴリーに分類するとともに、関わりの範囲や関わる人の属性についても、可能な範囲で記載した。また、地域資源や行事・活動の実施場所を示す地図「福住の大切にしたい資源・行事・活動ＭＡＰ」を、東部・中部・西部のエリアごとに作成した。

また、上記４つの分類に加えて、「集落」、「エリア・複数集落」、「地区全体」の３つの関わりの範囲で分類し、整理した結果を表にとりまとめた。「集落」に関わる地域資源や行事・活動は、「歴史・文化」のカテゴリーで多くみられた。一方、「エリア・複数集落」に関わる地域資源や行事・活動は、「歴史・文化」に加えて「生業」や「つながり・拠点」のカテゴリーにもみられ、「地区全体」では「自然」のカテゴリーにもみられた。

代表的なものをいくつか見てみると、伝統的建造物群保存地区とこれを活用した街並み保全活動が地区全体の資源・活動として大きく認知されていた。また、住吉神社と水無月祭り、熊野新宮神社と八朔祭礼などがエリア・複数集落に関わるものとして認知されていた。中部エリアでは、マグナムコーヒーをはじめとする起業された店舗が資源とみなされている点が興味深い。

また、特に集落が関わる祭りなどの伝統行事の中で、現存しないものが含まれていた。小規模集落化の影響により、集落単位での行事の継続が困難になりつつあると考えられる。

この結果をふまえ、地元住民と移住者に対するアンケート調査では、地域環境の魅力性に対する認識度や重要度の評価を通じて、地元住民と移住者双方に支持される地域環境の魅力性を明らかにする必要がある。

2）神楽の魅力発掘ワークショップ

■日時　　2020 年 10 月 19 日（月）　10 時～12 時

■会場　　神楽の郷交流センター

■参加者　計９名（地元居住者５名、スタッフ４名）

■進め方（参加者への案内事項）

⑴当日、皆様にポストイット（メモ用紙）をお配りします。

⑵各自がお住いの集落や神楽地区内で、

①皆様が自慢できる宝物と感じる資源、

②これからも大切にしたい行事や活動について、

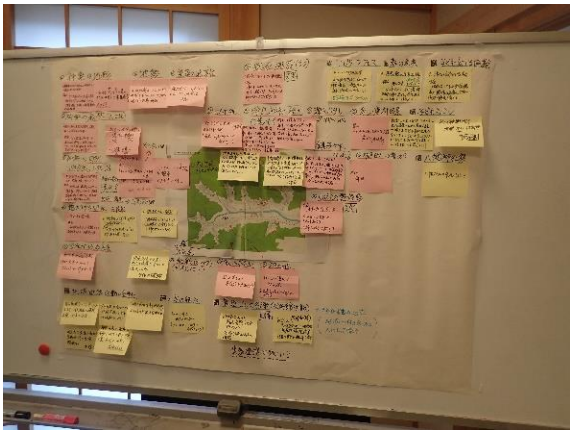
それぞれ５個程度、選んだ理由とともに、付せん（事項の見本）に書き出してもらいます。

⑶上記の①と②について、以前住民の皆様がお作りになった「神楽の郷お宝 BOOK」などを参考に、事前に検討をよろしくお願いします。

⑷最後に、全員でヒアリングの結果を確認したいと思います。

■議事録　　資料５に議事録をまとめた。

ワークショップでの協議の様子



検討結果

■神楽地区におけるワークショップの結果とりまとめ

ワークショップで出された意見をとりまとめ、資料６「神楽地区 WS による大切にしたい地域資源と行事・活動」として整理した。福住地区と同様に、地域資源と行事・活動は、「自然」、「歴史・文化」、「生業」、「つながり・拠点」の４つのカテゴリーに分類するとともに、関わりの範囲や関わる人の属性についても、可能な範囲で記載した。また、地域資源や行事・活動の実施場所を示す地図「神楽の大切にしたい資源・行事・活動ＭＡＰ」を、地区全体で作成した。

また、上記４つの分類に加えて、「集落」、「エリア・複数集落」、「地区全体」の３つの関わりの範囲で分類し、整理した結果を表にとりまとめた。「集落」に関わる地域資源が、「自然」のカテゴリーで多くみられた。また、「エリア・複数集落」に関わる地域資源や行事・活動も、「自然」のカテゴリーでのみみられた。「地区全体」では、「自然」のほかに「歴史・文化」、「生業」、「つながり・拠点」のカテゴリーでも地域資源や行事・活動が挙げられていた。

代表的なものをいくつか見てみると、文献調査でも抽出された銚子ヶ水や浄丸の滝、ホタル、清流などの自然資源が地域住民にとって重要なものと認識されていることがわかる。また、たばこの乾燥場や和紙（ミツマタ）などの現存しない生業も挙げられていた。さらに、公民館で行われる集落ごとの行事が「つながり・拠点」のカテゴリーで挙げられており、神楽の郷交流センターをはじめとする３つと拠点施設が地域づくりにとって重要な存在であることが伺えた。また、増加する空き家や古民家も資源であると捉えられている点は興味深い。

この結果をふまえ、福住地区と同様に、地元住民と移住者に対するアンケート調査では、地元住民と移住者双方に支持される地域環境の魅力性を明らかにする必要がある。さらに、福住地区と神楽地区では挙げられた地域資源や行事・活動の種類が異なっていることから、各地区の特性をふまえた地域環境の魅力化を進めていく必要がある。

＜その２＞Ｂ：小規模集落に対応した丹波地域の地域再生における人的ポテンシャルの活用方策の検討

Ｂ－１）研究の目的と内容

丹波地域において、近年地域外から移住されるUJIターン者※の方々が増加しており、中でも特に「福住地域」および「神楽地域」で流入人口の伸びが顕著です。

そのため、本研究では、「福住地域」および「神楽地域」を対象に、UJIターン者の方々がどのようなきっかけや理由で地域に来られ、どのように暮らし、地域との関係を構築しているか等の実態を把握することを目的としている。

具体的には、UJIターン者を対象に、移住プロセス（移住前・移住準備・移住後における経緯、基礎情報の収集、生活生業への地域サポート、支援制度の活用や有効性、地元や他の移住者との係わりなど)、ライフスタイルや事業の志向性、収入や就労（創業・起業含む）等に関する実態を、質問紙および対面ヒアリングにより調査し、より暮らしやすく魅力的な地域となるための方策や、他地域でも、活用可能な方策を探ることを目指した。

まず、① 福住地域、神楽地域におけるUJIターン者を対象に、質問票調査により、移住時期やその理由、支援制度の活用状況、地元や他の移住者との関わり、地域での生活満足度、収入や就労（創業・起業含む）等をアンケート調査を実施した。

次に、② 移住者のうち、主に創業を伴う移住者を対象に、移住プロセスや関わりの深い地域活動への参加のきっかけや参加程度等に関して、より具体的かつ詳細な聞き取り調査を実施した。

Ｂ－２）福住地域と神楽地域におけるUJIターン者を対象としてアンケート調査結果

1）調査概要

名称：　移住に関するアンケート

目的：	丹波エリアで近年移住者の多い神楽地域および福住地域を対象に、移住の理由やきっかけ、地域資源との関わり等について、移住者へのアンケート調査を通じて実態を明らかにする。
時期：	2020年８月～
対象：	神楽地域および福住地域における移住者
方法：	自記式郵送調査法 （協議会の持つ移住者情報に基づき、対象者への配布、郵送での回収）
項目：	移住理由やきっかけ 地域資源や地域活動との関わり 仕事について

2）回収状況

	神楽	福住	
対象	移住者全般	起業者	一般
回収数	29部	23部	27部
配布数	50部	31部	52部
回収率（%）	58.0%	74.2%	51.9%

3）調査結果の概要

⓪回答者の属性（傾向）

年齢：神楽では60～70歳代が最も多く、福住（一般）では60歳代に次ぎ50歳代が多く、福住（起業者）では30歳代に次ぎ50歳代が多い。

神楽では年金生活者が多く、福住（起業）では子育て世代が多い。

福住（一般）で農業者が多い。

福住（一般）で夫婦のみ世帯がもっとも多い。

①移住のきっかけ

地域について：神楽では「空き家情報（51.7%）」、福住では「知人・友人（52.6%）」を通じて知る移住者が多い。

住居（店舗）について：神楽では「不動産業者（40.7%）」、福住では「知人・友人（52.6%）」を通じて知る移住者が多い。

その他・・・インターネット、自分で調査した、かじかの郷、PA のチラシ（神楽）　など

福住（一般）は福住（起業）より神楽の傾向と近く、きっかけの相違は起業者に特有の傾向

物件の所有者から知るという経路は、福住で一般・起業ともに共通してみられる傾向

②移住時期

移住時期は、20 年の中で、直近 10 年で多い。

起業を伴う移住者で直近 10 年以内に偏っている傾向。

（ただし、回答者の傾向なので、地域内の移住者の動向とは必ずしも一致しないことに注意）

③移住理由（重視したこと）

物件に関する理由（「物件が気に入るか」、「屋外スペース、屋内スペースが利用できるか」）が多く、次に「自然環境」が重視した理由として多かった。

④移住前の住宅環境

神楽で戸建持ち家から、福住で共通して賃貸集合住宅からの移住が多い傾向にあった。

⑤移住段階ごとの支援の有無

神楽（丹波）：移住前（物件紹介、購入）、移住後（就労、子育て）ともに「支援なし」が過半数という結果を示した。

福住（篠山）：物件紹介や購入に「行政」や「知人・友人」の支援が一定程度あり、就労・起業に「行政」からの支援が 4 割程度、日常生活のアドバイスで過半数が「地域住民」からの支援ありと回答した。

仲間づくりは共通して「地域住民」からの支援ありという回答が 1/4 程度となった。

⑥地域資源との関わり

祭りや行事に関わると回答した移住者は半数以上

「山林」や「農地」の保全に関わると回答した移住者は 1/4 程度

「まちなみ保全」や「空き家活用」への関わりは神楽が 1/4 程であるのに比して、福住では過半数以上が関わると回答

「特産品の販売」、「移住者・観光客誘致」では福住で顕著に関わると回答した移住者の割合が高い。

福住（一般）と神楽で維持管理作業、農地保全、特産品販売で傾向が異なっており、福住で農業者が多いことに起因していると思われる。

⑦交流

「近所づきあい」、「集落内・校区内の住民交流」では、両地域とも「交流あり」と回答した割合が高かった。

「移住者同士の交流」では、神楽が 1/4 程度であるに対して、福住では 3/4 程度が交流ありと回答した。

⑧生活の満足度

「まちなみ」、「伝統的な雰囲気」、「地域の人柄」、「地域のサポート」、「付き合い」では両地域で満足という回答が多かった。

一方で「交通の便」、「買い物」で満足でないという回答が多かった。

永住希望は福住（一般）でもっとも高く、「総合評価」は総じて高い結果となった。

⑨今後の地域との関わり

現時点で関わっていると回答した移住者の多くは、今後も関わりたいと回答している。

「山林」や「農地」の保全については、両地域とも半数程度が関わりたい意向があった。

Ｂ－３）起業を伴う移住者への聞き取り調査結果

1）調査概要

アンケート調査結果に基づき、調査に協力可能な UJI ターン者を対象に、訪問による対面（一部はオンライン）での聞き取り調査を実施した。

調査を通じて、移住前後で事業内容に変化が生じたかどうか、また福住地域における移住を伴う新規創業者数の増加度合いに応じて、ビジネス環境としての地域への期待や求めるものが時系列で変化しているかどうかを明らかにすることを目指した。

2）実施状況

福住地域内での起業を伴う移住者世帯全 18 件（2011 年以降～2020 年 9 月末）のうち、10 件（夫婦共同経営の場合、1 組とカウント）を対象に、事業に関する詳細（売上規模、雇用者数など）および移住起業のプロセスや地域選定の条件などについて質問した。

3）結果の概要

全体的な傾向として、福住地域における起業を伴う移住者の多くは、事業に適した物件に出会ったことをきっかけに移住を決めていることが伺えた。

また前期（2011 年以降）の移住起業者は、「何もない田舎」を期待して移ってきた一方で、2019 年以降（後期）では、ある程度事業者の集まりのある場所として、福住地域を選定している傾向にあることが考察された。

（資料編「集落の再生・活性化方策の検討」報告書参照）

（2）地域再生プロジェクトチーム会議

1）会議の趣旨

・県民局の地域再生大作戦の事業解説とともに、丹波の森研究所の調査研究「集落の再生・活性化方策の検討」をテーマとして、丹波篠山市および丹波市の地域づくり担当者および丹波の森研究所の研究員による意見交換を行った。

・今年度は２回開催した。（令和２年８月20日、令和３年３月９日）

2）第１回地域再生プロジェクトチーム会議（令和２年８月４日）

今年度の調査研究テーマ「集落の再生・活性化方策の検討」について意見交換を行った。

【意見交換資料：平成元年度 集落の再生・活性化方策の検討（丹波の森研究所）】

（1）調査概要

①まちづくり協議会へのアンケート調査

◆これまで取り組まれた支援事業の内容と現状の評価について

◆地域活動の実施状況、実施主体の現状と将来の方向性について

②アドバイザーへのアンケート調査

◆これまで取り組んだ支援事業の内容と評価について

（2）次年度以降の調査実施予定

全体テーマ：小規模集落再生のための人的資源および環境資源活用についての実践プロジェクト

◆小規模集落化に対応した丹波地域地域再生における人的ポテンシャルの活用方策の検討

―稼げるUJIターン者の増大に向けた連携プロジェクトの提案―

（兵庫県立大学と共同研究）

◆小規模集落化に伴う丹波地域の地域環境の保全方策の検討

―人材定着のための地域環境の魅力化と再生方策の提案―

（大阪府立大学と共同研究）

（3）地域活動に係わる調査概要

〇地域活動の分類と活動内容

◆コミュニティの形成に係わる活動：伝統的なまつりなど9活動

◆環境性能の維持に関する活動：川の動植物現況調査など12活動

◆生業の活性化に係わる活動：放棄林の現況調査など7活動

〇実施の有無

全域で実施／一部で実施／実施していない

〇各地域活動への参加人数、75 歳以上の高齢者の参加割合

〇現在および将来の実施主体

集落単独で実施／近隣集落と合同で実施／校区全体で実施／その他

〇現時点での協議会へのアンケート回収状況

44 集落／44 集落（回収率：100%）

（４）地域活動に係わる調査結果

①地域活動の実施状況について

＜図１－１より＞

・コミュニティ形成に係わる地割合が高い。特に、防犯活動～スポーツレクリまでの 7 つの地域活動の実施割合は高いことが特徴的である。

・環境性能の維持活動では、近隣の清掃草刈りが特筆して高く、休耕田や空き家の現況調査がやや高い。その他は相対的に低い。

・生業の活性化に係わる活動は相対的に低いが、集落営農の推進がやや高い。

＜図１－２より＞

・各校区での地域活動の実施状況から、地域活動の類似程度をクラスター分析すると、3 つのグループに分類される。第１のグループは、コミュニティ形成に係わる地域活動と環境性能の維持に係わる「近隣の清掃・草刈」で、いずれも実施割合が高い地域活動である。

・第 2 グループは、第１グループ以外のコミュニティ形成に係わる地域活動と環境性能の維持に係わる地域活動の中で、主に生活環境の維持に係わる地域活動である。

・第 3 のグループは、上記グループ以外の森や川などの自然インフラに係わる環境性能の維持に係わる地域活動と生業の活性化に係わる地域活動である。このことより、生業の活性化のための基盤環境の再生の必要性が示唆される。

＜図１－３より＞

・先述したグループ１の地域活動（特に、伝統的なまつり、近隣の清掃草刈、スポーツレクリなど）の参加人数が多く、これらの地域活動が校区の代表的な地域活動といえる。

＜図１－４より＞

・高齢者の割合は、高齢者福祉活動、敬老会などでは自ずと高いが、高齢者の参加割合が 4 割前後と高い活動として、文化祭、近隣の清掃草刈、スポーツレクリなどがあげられ、75 歳以上の高齢者に支えられている状況が再認識される。

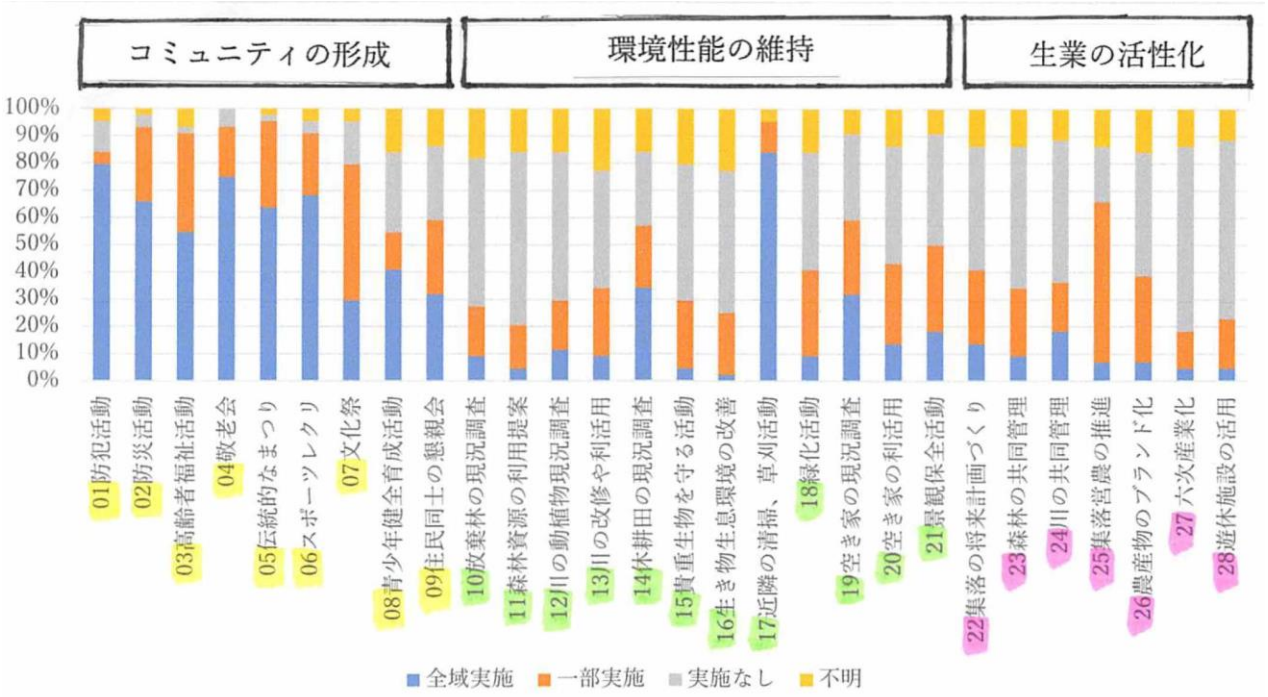
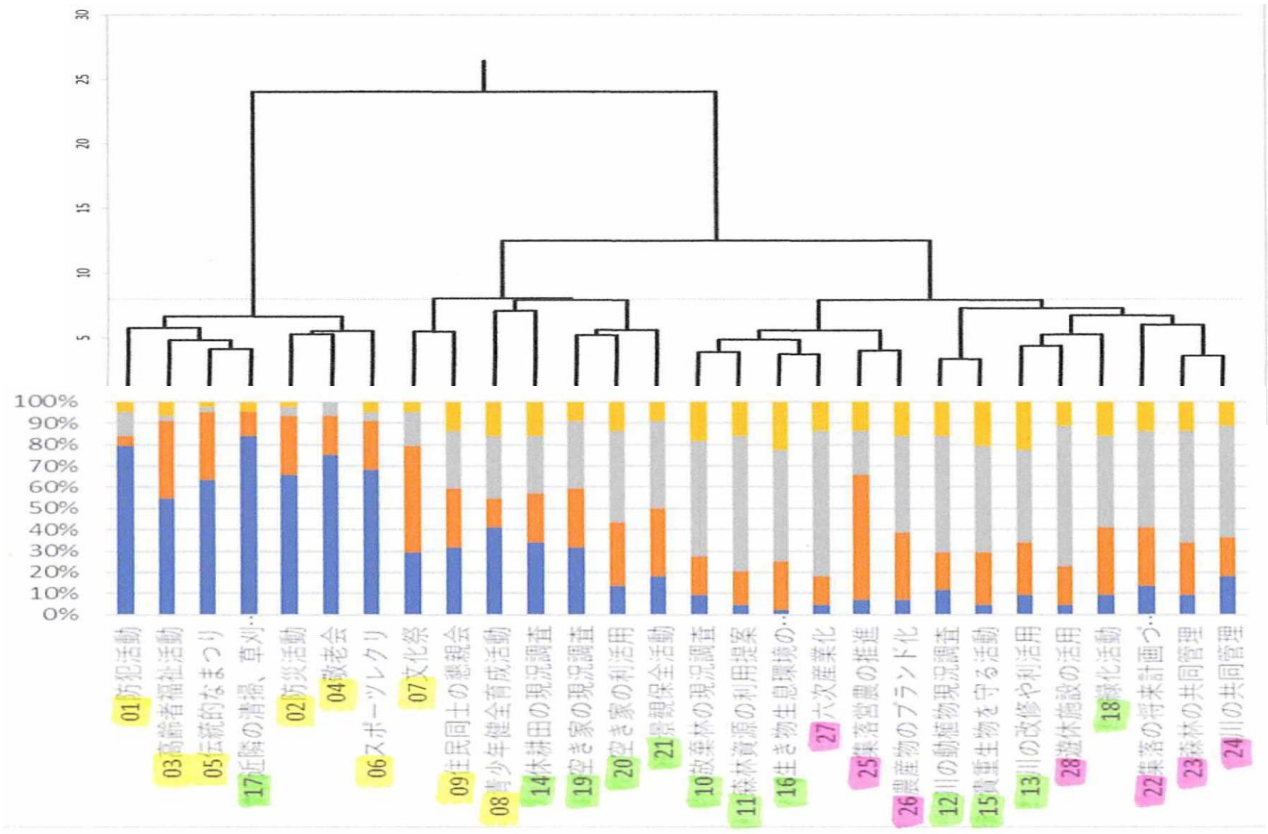


図１－１　地域活動の実施状況



１－２　各校区での実施状況からみた地域活動の分類

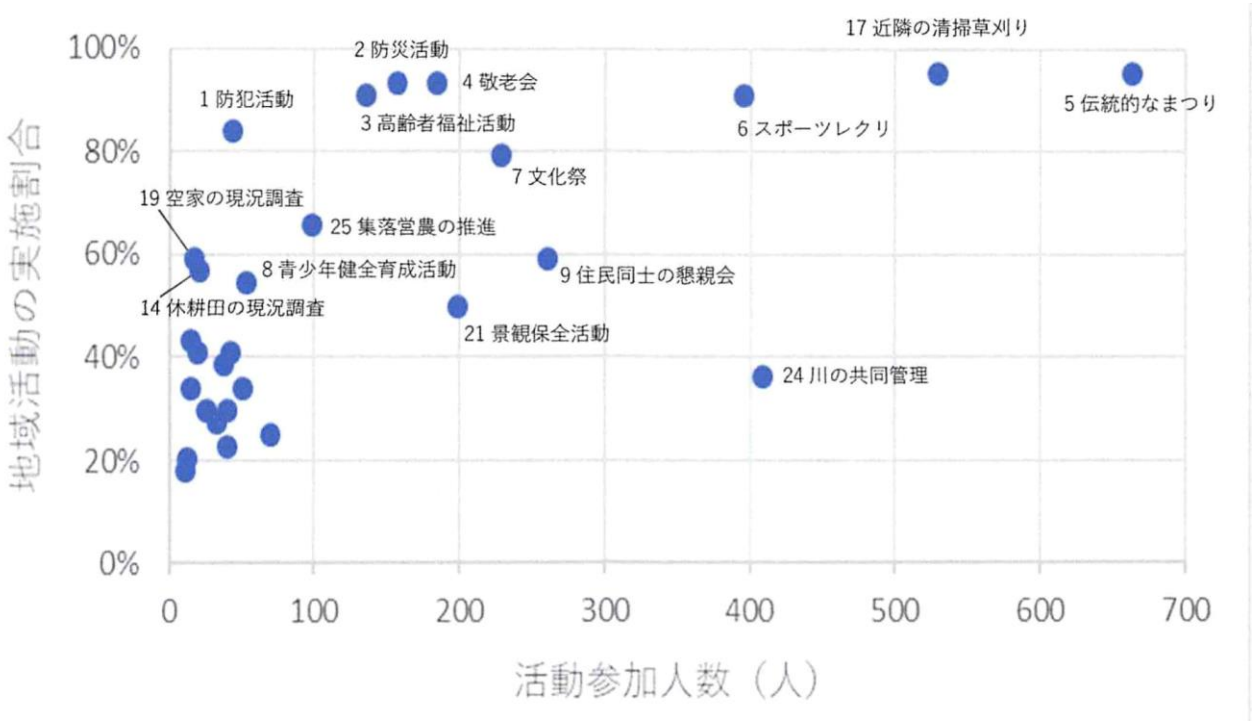


図１－３　地域活動の実施割合と参加人数

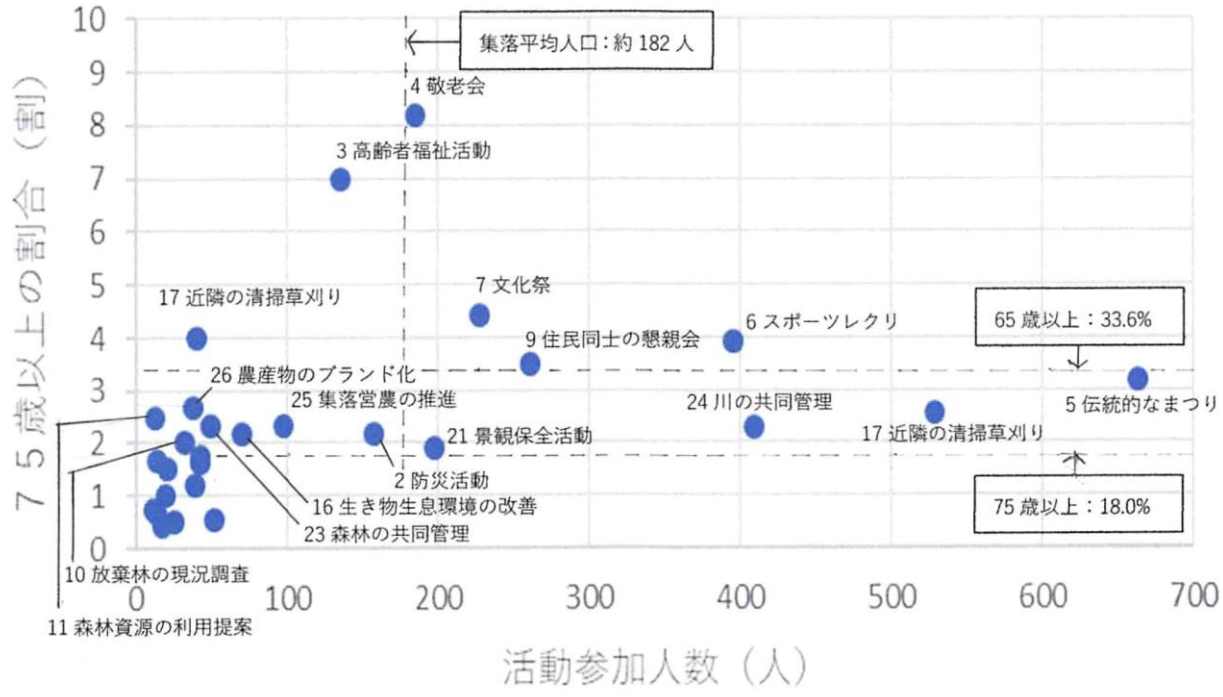


図１－４　地域活動の参加人数と 75 歳以上の割合

②地域活動の実施主体について

＜図２－１より＞

・現在の実施主体をみると、集落単位で実施される活動が、16 活動と相対的に多い。一方、防犯活動、防災活動、スポーツレクリ、青少年育成活動、6 次産業化、遊休施設の活用などの 6 活動は、すでに校区単位で実施される傾向にある。

＜図２－２より＞

・将来の実施主体をみると、集落での実施される活動が、敬老会、住民同士の懇親会、近隣の清掃、空き家の現況調査、休耕田の調査など 5 活動に留まり、連携で実施される活動が、6 活動（現在）から 12 活動（将来）に、また校区で実施される活動も、6 活動（現在）から 11 活動（将来）に増える傾向にある。

＜図２－３～５より＞

・将来の実施主体に着目すると、環境性能の維持では、校区単位に変化するものが多いのに対し、「高齢者福祉活動」「敬老会」などのコミュニティの形成、「集落の将来計画づくり」「森林の共同管理」「集落営農の推進」「農産物のブランド化」などの生業の活性化は、集落連携に変化する傾向が予想される。

＜表２－１より＞

・地域活動の実施主体は、集落連携や校区単位に変化していく傾向にあるが、地域活動毎の方向性が異なることに留意する必要がある。

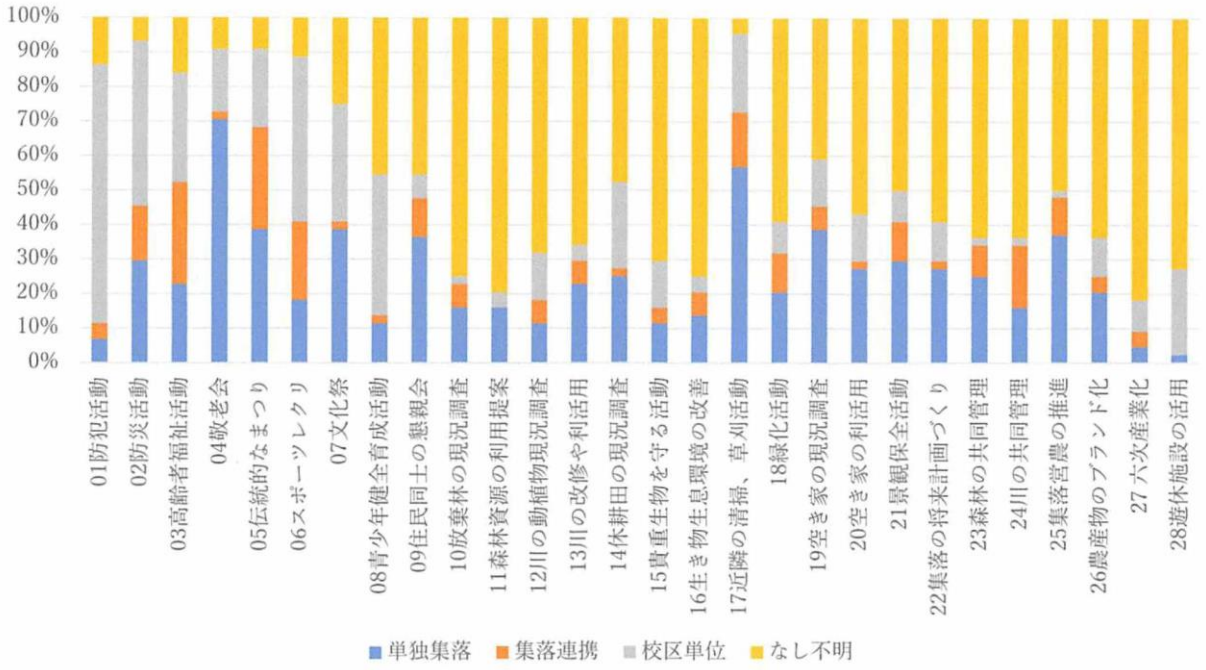


図 2-1　地域活動の現在の実施主体

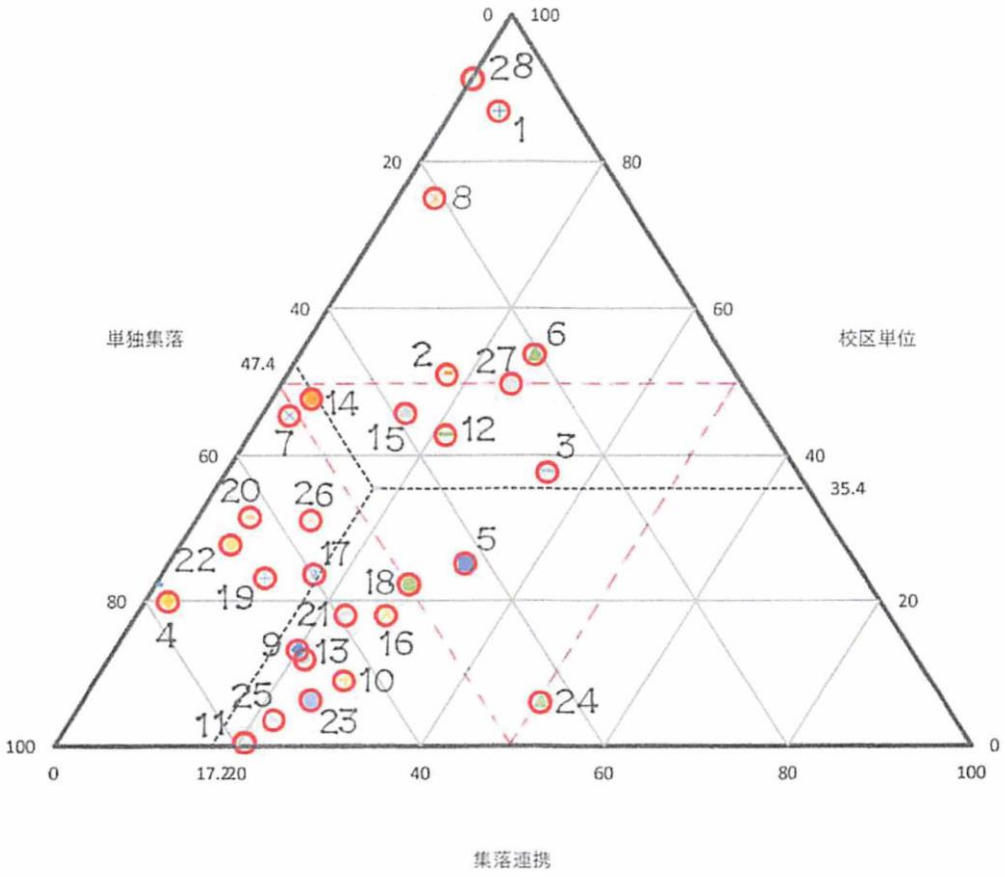


図２－２　現在の実施主体の構成割合

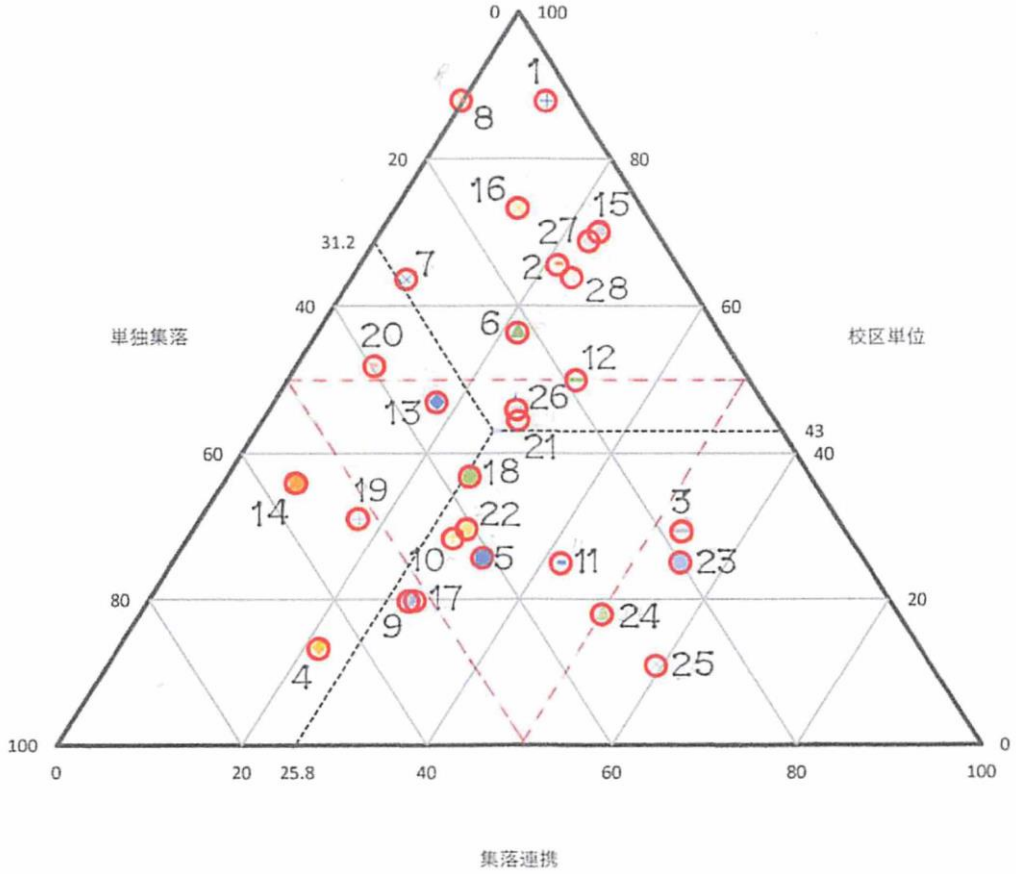


図２－３　将来の実施主体の構成割合

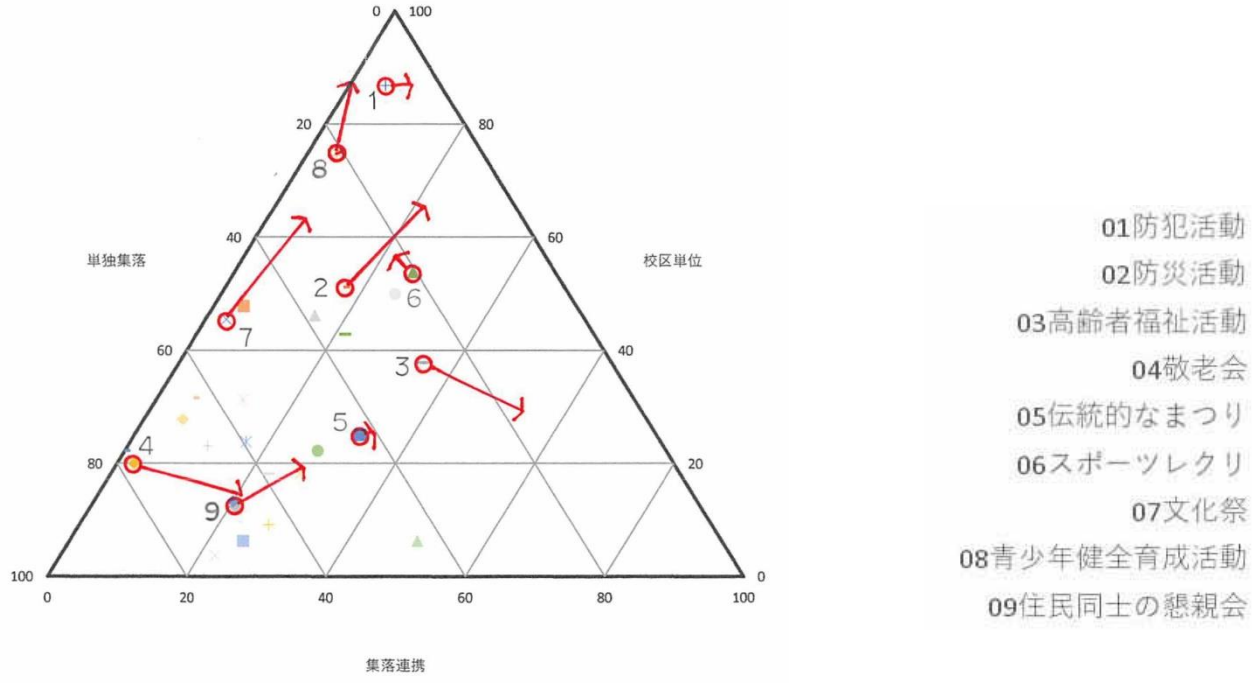


図２－４　コミュニティ形成に係わる地域活動の実施主体の変化

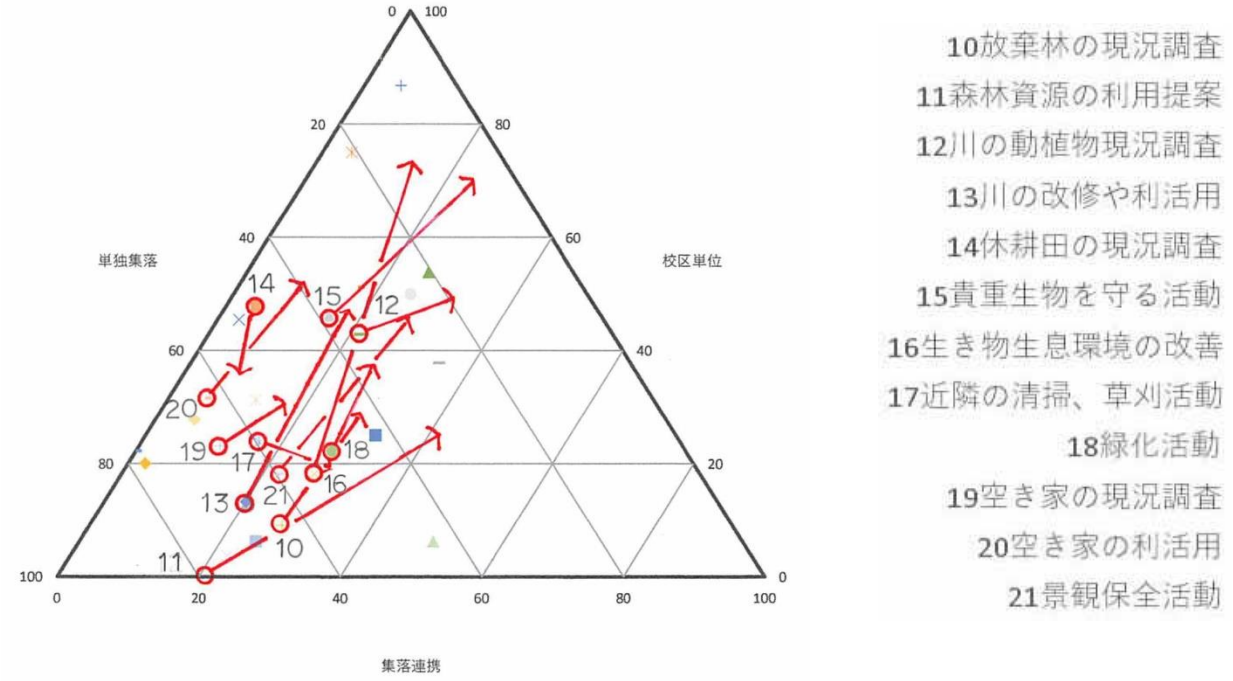


図２－５　環境性能の維持に係わる地域活動の実施主体の変化

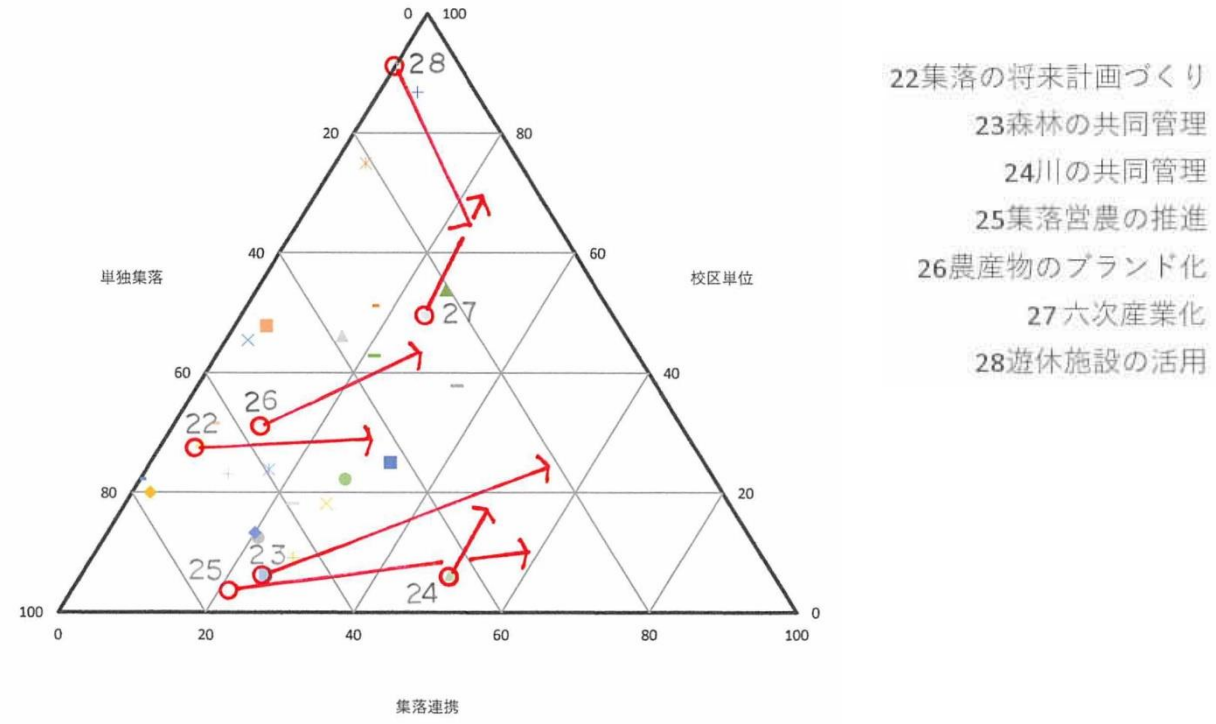


図２－６　生業の活性化に係わる地域活動の実施主体の変化

表２－１　地域活動の実施主体の変化のまとめ

		将来の実施主体				
		単独集落 (50%以上)	集落連携 (50%未満)	集落連携 (50%以上)	校区単位 (50%以上)	
現在の実施主体	単独集落 (50%以上)	04 敬老会 09 住民同士の懇親会 17 近隣の清掃、草刈活動 19 空き家の現況調査	10 放棄林の現況調査 11 森林資源の利用提案 13 川の改修や利活用 18 緑化活動 21 景観保全活動 22 集落の将来計画づくり 26 農産物のブランド化	23 森林の共同管理 25 集落営農の推進	07 文化祭 16 生き物生息環境の改善 20 空き家の利活用	16
	集落連携 (50%未満)	14 休耕田の現況調査	05 伝統的なまつり	03 高齢者福祉活動	12 川の動植物現況調査 15 貴重生物を守る活動	5
	集落連携 (50%以上)	－	－	24 川の共同管理	－	1
	校区単位 (50%以上)	－	－	－	01 防犯活動 02 防災活動 06 スポーツレクリ 08 青少年健全育成活動 27 六次産業化 28 遊休施設の活用	6
		5	8	4	11	28

③小規模集落の現状と地域活動との関係

〇丹波地域の小規模集落化の現状

・44 校区計 583 集落の中で、158 集落が小規模で、小規模集落の割合は 27.6%。
（小規模集落の定義：世帯数が 50 世帯以下で、その集落の住民の高齢化率が 40%以上である集落）

・校区毎の 65 歳以上の割合は、36.3%。

・校区毎の集落世帯数の平均は、76.4 世帯。

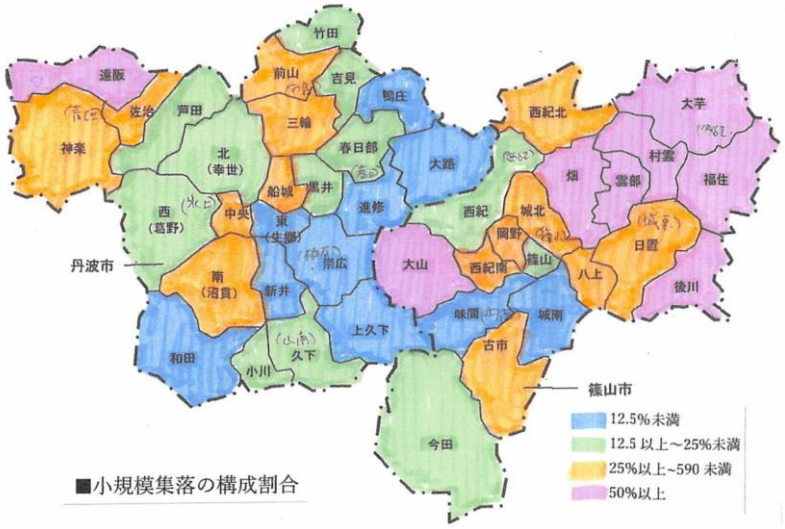


図３－１　小規模集落の構成割合からみた校区分類

〇小規模集落化と地域活動との関係

・実施状況から校区を図３－２のように分類することができるが、この分類と小規模集落の構成割合からみた校区分類（部３－１）との関係をみると、明確な関係は見出し難い。

図３－２　実施状況から見た校区の分類

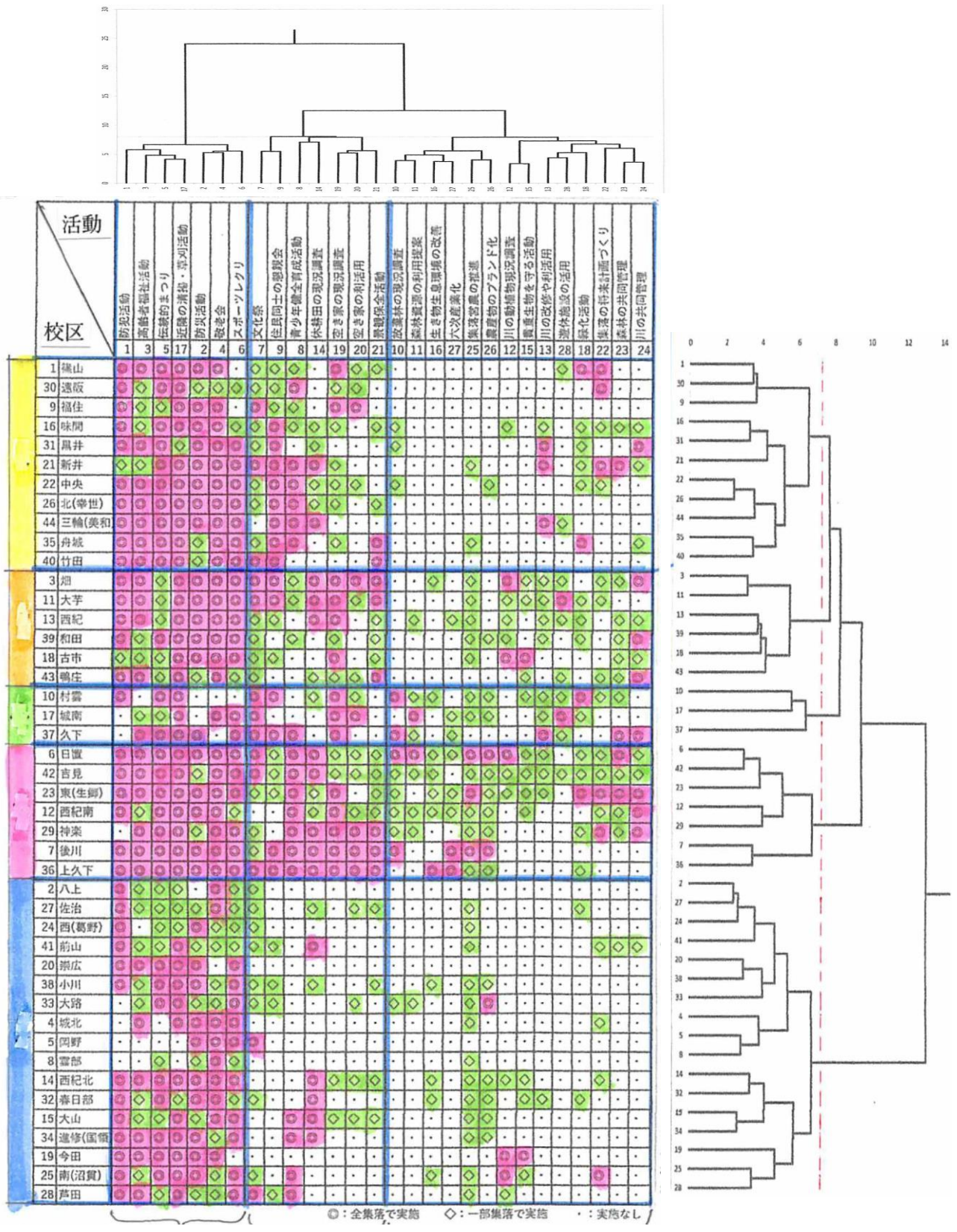


図３－３　実施状況からみた地域活動と校区のクラスター分析結果

・表３－１は、小規模集落の現状と地域活動との相関係数を示している。表の下のｐ値は相関係数の有意水準を示している。その結果、小規模集落の現状と地域活動の関係では、活動グループ２（文化祭、住民同士の懇親会、青少年育成活動、休耕田の現況調査、空き家の現況調査、空き家の利活用、景観保全活動）、伝統的なまつり、空き家の利活用などで、弱い関係が認められる。

表３－１　小規模集落の現状と地域活動との関係

	小規模集落割合	世帯数平均	65以上割合
クラスター7分類	0.0163	0.0953	-0.1124
Ｇ１平均	-0.2224	0.1911	-0.0548
Ｇ２平均	0.2473	-0.2479	0.3492
Ｇ3平均	-0.0779	0.0340	-0.0121
全体平均	0.0009	-0.0335	0.1256
01防犯活動	0.0494	0.0015	0.0553
03高齢者福祉活動	-0.1971	0.0938	0.0352
05伝統的なまつり	-0.2622	0.2795	-0.0511
17近隣の清掃、草刈活動	-0.0573	0.0313	0.0362
02防災活動	-0.1227	0.2233	-0.1008
04敬老会	-0.0388	-0.1321	-0.0263
06スポーツレクリ	-0.2278	0.2271	-0.1586
07文化祭	0.0976	-0.1363	0.1629
09住民同士の懇親会	0.1900	-0.2176	0.1844
08青少年健全育成活動	0.0617	0.0496	0.0501
14休耕田の現況調査	0.0894	-0.0558	0.1662
19空き家の現況調査	0.2025	-0.2375	0.2541
20空き家の利活用	0.3660	-0.3214	0.4118
21景観保全活動	0.1087	-0.2224	0.3577
10放棄林の現況調査	0.0889	-0.0884	0.0629
11森林資源の利用提案	-0.1439	-0.0682	0.0132
16生き物生息環境の改善	-0.0148	0.1347	0.0968
27　6次産業化	-0.0397	-0.1317	0.0161
25集落営農の推進	0.1066	-0.0363	0.1665
26農産物のブランド化	-0.0797	0.1214	0.1181
12川の動植物現況調査	0.0085	0.0185	0.0841
15貴重生物を守る活動	0.0721	-0.0339	0.1046
13川の改修や利活用	-0.1447	0.0883	-0.1940
28遊休施設の活用	0.1246	-0.1308	0.1545
18緑化活動	-0.1811	0.1487	-0.1143
22集落の将来計画づくり	0.1138	0.0865	-0.1367
23森林の共同管理	-0.1917	0.0450	-0.1792
24川の共同管理	-0.2278	0.0317	-0.1405
	p ＜0.01	p<0.05	p<0.10

④地域づくり支援と地域活動との関係

・表４－１より、県の地域づくり支援は、県民交流広場事業の後、活発に展開されている。

・表４－２に示す、地域づくり支援と地域活動との相関係数より、県の支援は、小規模集落の現状に対応している傾向にある。また、県による支援は、空き家の利活用や 6 次産業化、集落営農の推進などと弱い関係が認められる。

表４－１　丹波地域における地域づくり支援の実施状況

		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
篠山	篠山								●			●		◇								▼
	八上							●						◇								
	畑												◇			▼	▼	▼				
	城北					●	●					☆A	☆A	●☆A◇						▼	▼	
	岡野	●											◇					●	●	★		
城東	日置	●			●	●	●	●	●		◇		●	●					★▼	★▼	★	★
	後川													●◇☆B		☆B					★	★
	雲部										◇				●☆B	☆B	☆B				★	★
多紀	福住	●	●						●		●		◇	●		▼	☆B	★	★▼	★▼	★▼	★▼
	村雲				●								◇					★	★	★	★	★
	大芋								●◇	●			●☆A	☆A	☆A		☆D				★▼	★▼
西紀	西紀南					●	●						◇		●				★	★		
	西紀	●	●	●			●	●	●	●	●	◇						★	★			
	西紀北						●	●		◇			●					▼	▼			
丹南	大山				●		●	●	◇	●			☆B	●	☆B						★	★
	味間	●			●	●	●	●	●	●	●	●		●◇		●	●	●				●
	城南										●	◇		☆B				▼	★▼	★	★▼	
	古市										●	●◇							★			
今田	今田							●	●	●				●◇				●			★	★
柏原	崇広	●	●	●											◇☆C	▼	▼	▼	▼	▼	●▼	▼
	新井													◇	☆C							
氷上	中央					●						●	◇				▼					
	東・生郷												◇			●		★	★			
	西・葛野												◇			☆E	☆E		★			
	南・沼貫	●	●				●	●					☆A	☆A	◇☆A		▼					
	北・幸世	●						●			●	●	◇									
青垣	佐治											◇									▼	▼
	芦田														◇							
	神楽	●	●	●					◇				☆B	☆B				●★	●★	★	●★	
	遠坂									◇	●		●☆B	●	●		●	●			●	●
春日	黒井	●	●	●					◇					●	●						★	
	春日部						●	●		●					●◇		●			●★		
	大路														◇						★	
	進修・国領						●	●							●◇							
	船城													◇								
山南	上久下										●	◇					☆E	★	★	★	★	★
	久下										●◇	●	●	●					▼	▼	▼	▼
	小川														●◇							
	和田									●					◇				★		▼	
市島	竹田										●	●◇								★▼	★	
	前山	●									◇						☆E	★	★			★
	吉見									◇									▼			
	鴨庄	●		●				●		◇												
	三輪・美和									◇			●	●	●		●		★	★		

●：丹波の森研究所のアドバイザー派遣

◇：県民交流広場事業の採択年度

★：地域再生大作戦の実施（H26以降のみ）

☆：A小規模集落元気作戦、Bふるさと自立計画推進モデル事業、Cまちなか振興モデル事業、D交流促進・自立応援事業 、E地域再生拠点等プロジェクト支援事業

▼：学生団体の活動

表４－２　丹波地域における地域づくり支援と地域活動との関係

	県支援	森研支援	学生支援	合計
小規模集落割合	0.4887	-0.0346	0.0972	0.2633
世帯数平均	-0.4022	0.0245	0.0750	-0.1591
65以上割合	0.4184	-0.0512	0.0090	0.1814
クラスター7分類	-0.1369	-0.1455	0.1208	-0.1248
Ｇ１平均	-0.2089	0.1715	0.0195	0.0211
Ｇ２平均	0.2566	0.0072	0.0006	0.1364
Ｇ3平均	0.1606	0.0681	-0.0143	0.1242
全体平均	0.1372	0.0871	-0.0021	0.1303
01防犯活動	-0.1768	0.1002	-0.0845	-0.0530
03高齢者福祉活動	-0.1951	0.1064	0.1995	0.0527
05伝統的なまつり	-0.1713	0.1413	-0.0898	-0.0235
17近隣の清掃、草刈活動	0.0041	0.1058	0.1718	0.1432
02防災活動	-0.1235	0.2682	0.1352	0.1776
04敬老会	0.0525	0.0708	-0.2751	-0.0308
06スポーツレクリ	-0.1342	-0.1311	0.0356	-0.1466
07文化祭	0.1365	-0.1751	0.1399	0.0015
09住民同士の懇親会	-0.0184	-0.0027	-0.0627	-0.0357
08青少年健全育成活動	0.0347	0.0796	-0.1013	0.0341
14休耕田の現況調査	0.1784	0.1500	-0.1979	0.1191
19空き家の現況調査	0.3054	0.0563	0.1494	0.2538
20空き家の利活用	0.4335	-0.0845	0.2376	0.2549
21景観保全活動	0.1010	-0.0542	-0.0966	-0.0241
10放棄林の現況調査	0.1327	0.1439	0.0042	0.1703
11森林資源の利用提案	0.2385	0.1225	0.1562	0.2686
16生き物生息環境の改善	0.1411	-0.1044	-0.0414	-0.0172
27　六次産業化	0.3304	-0.0051	0.0106	0.1693
25集落営農の推進	0.3344	-0.2857	-0.1719	-0.0964
26農産物のブランド化	0.1997	-0.0893	-0.1275	-0.0103
12川の動植物現況調査	-0.0562	0.1732	0.0537	0.1137
15貴重生物を守る活動	0.0074	0.0300	-0.0521	0.0045
13川の改修や利活用	-0.0573	0.1569	0.0823	0.1128
28遊休施設の活用	0.1296	-0.0803	0.2407	0.1037
18緑化活動	0.0696	-0.0317	-0.1140	-0.0311
22集落の将来計画づくり	0.0663	0.1460	-0.0774	0.1060
23森林の共同管理	-0.0223	0.1186	0.0136	0.0770
24川の共同管理	-0.1436	0.0921	-0.0331	-0.0217

		p ＜0.01	p<0.05	p<0.10

３）第２回地域再生プロジェクトチーム会議（令和３年３月９日）

・今年度の兵庫県地域創生局からの調査研究委託「丹波地域における移住及び二地域居住等現状分析」の中間報告を踏まえ意見交換を行った。

【意見交換資料：丹波地域における移住及び二地域居住等現状分析（中間報告）】

●丹波地域の二地域居住の現状を分析するにあたり

・丹波篠山市と丹波市とは都市部等との距離的立地が異なる点を考慮すること

・「二地域居住」が目的化するのではなく、丹波地域の将来像を描くなかで、その実現のための手段・ツールとなるべきもの

・二地域居住を広義の視点で捉える必要があるのでは

⇒観光・宿泊という側面で見ると、既に丹波篠山市は成功事例となっている点を考慮

⇒観光という側面は、目指すべき将来像（移住定住など）を考慮

●丹波地域の二地域居住の現状分析について

①「具体的な数字」で、丹波地域の二地域居住の現状を分析

・丹波地域内外への人の動き…移住的側面、観光的側面

②二地域居住のキーマン（地域コンシェルジュ的）を抽出し、ヒアリングを行う

●令和２ 年度の成果物について

①丹波地域における二地域居住の現状分析シート（別紙抜粋）

②二地域居住丹波モデルに関する仮説・新しい切り口の提案

●「新しいコミュニティ」が交流人口・二地域居住を誘発している⇒魅力的な「入口」となっているコミュニティのテーマの設定によって異なった人の流れを作り出す可能性がある。

●二地域居住には「宿泊施設」以上、「住宅」未満の滞在拠点が必要とされている。

お試し滞在宿泊施設、緩いコミュニティのあるシェアハウス、学生用の寮的な拠点…

●地域課題を仕事化するマネジメント機能を持った拠点の整備が二地域居住や二地域仕事を促進する

●二地域居住の多面性への配慮と二地域居住を支援する仕組みの構築

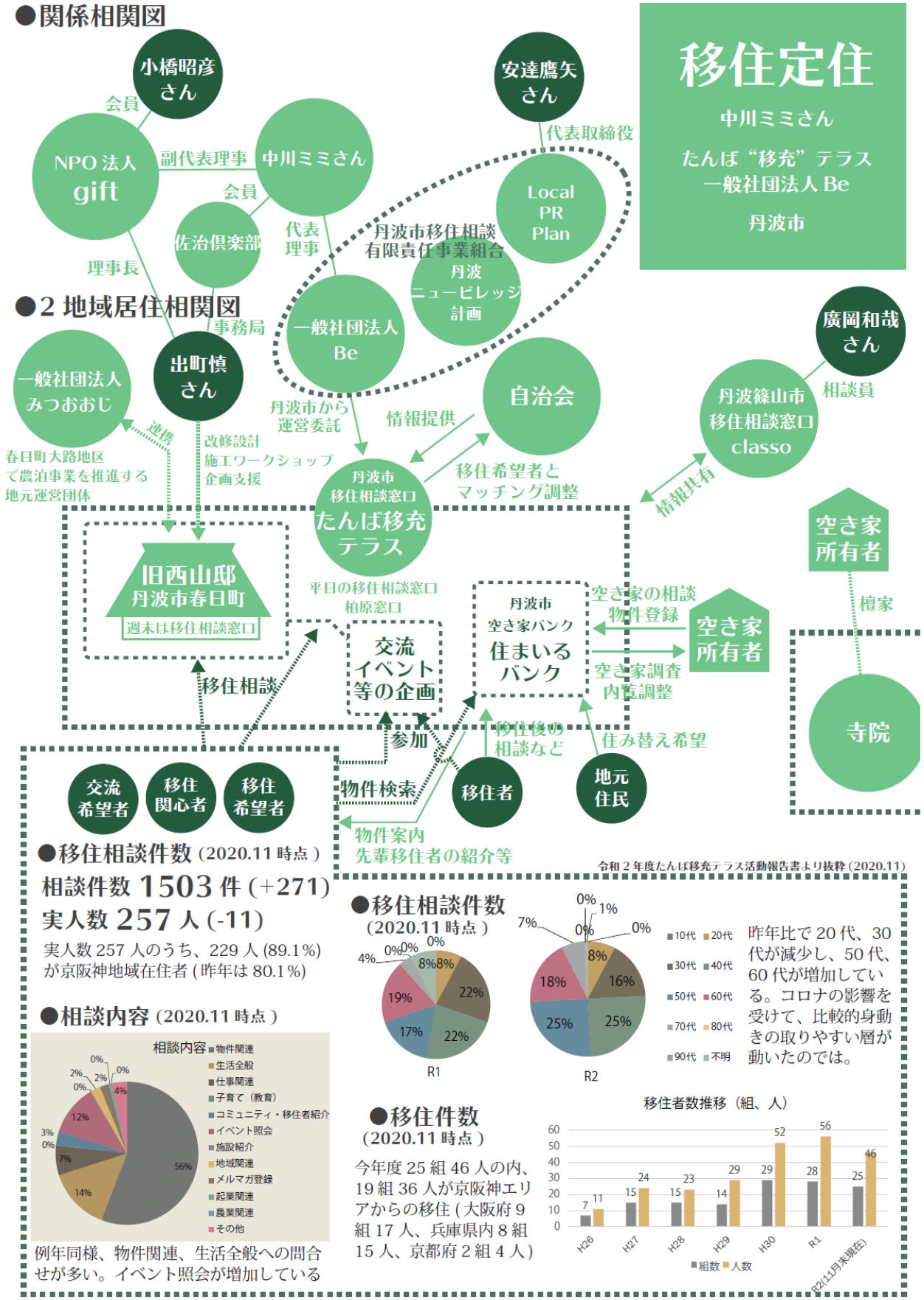
二地域居住に負担を感じている層があることの認識と根本にある課題整理、支援のあり方の検討

●空き家等資産活用・管理や二地域居住の施策推進の仕組みに「お寺・檀家コミュニティ」を取り込む

●丹波地域に関わる大学生や帰省する子供たちは未来の二地域居住者であり孫ターンなど移住者になる。次世代の地域の担い手育成に力を入れる必要がある。

（詳細は「2-4 丹波地域における移住および二地域居住等現状分析業務」報告書参照）

【現状分析シート例：関係相関図／ヒアリング調査より構成】



1-2　地域づくり支援事業

（1）地域づくりアドバイザーの派遣

1）アドバイザー派遣重点地区の支援

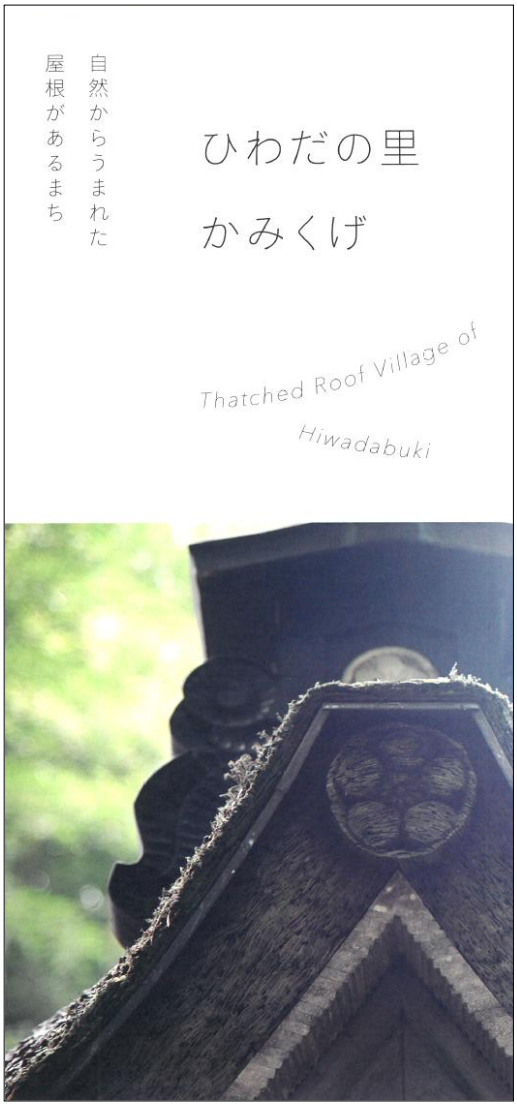
・地域づくり重点地区への支援としてのアドバイザー派遣は、主に森研究所の研究員が地域づくり支援を行います。最近では、集落だけでなく、高校や小学校からも、現況把握や問題整理など、ワークショップによる課題解決のための支援要望があり、若い世代の地域づくりの関心を高める取り組みとしても考えています。

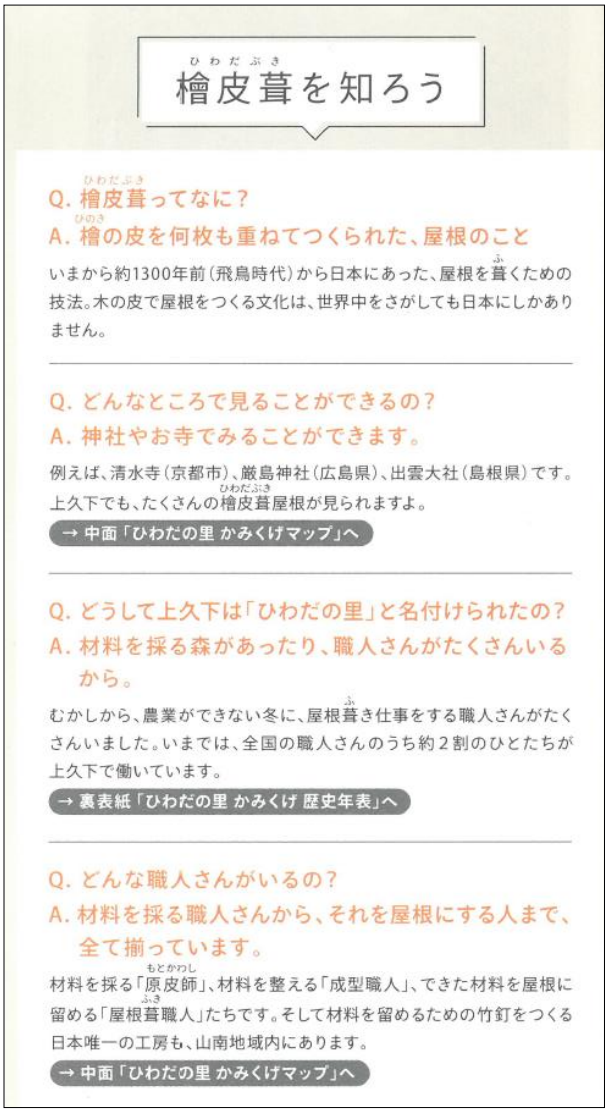
2）アドバイザー派遣実績

①丹波市山南町上久下地域（3回／令和2年12月25日～令和3年1月19日）

・アドバイザー業務（片平研究員）

上久下（かみくげ）地区に今も継承されている伝統的技術「檜皮葺」の里としての PR するためのパンフレット（マップ）づくりをサポートした。



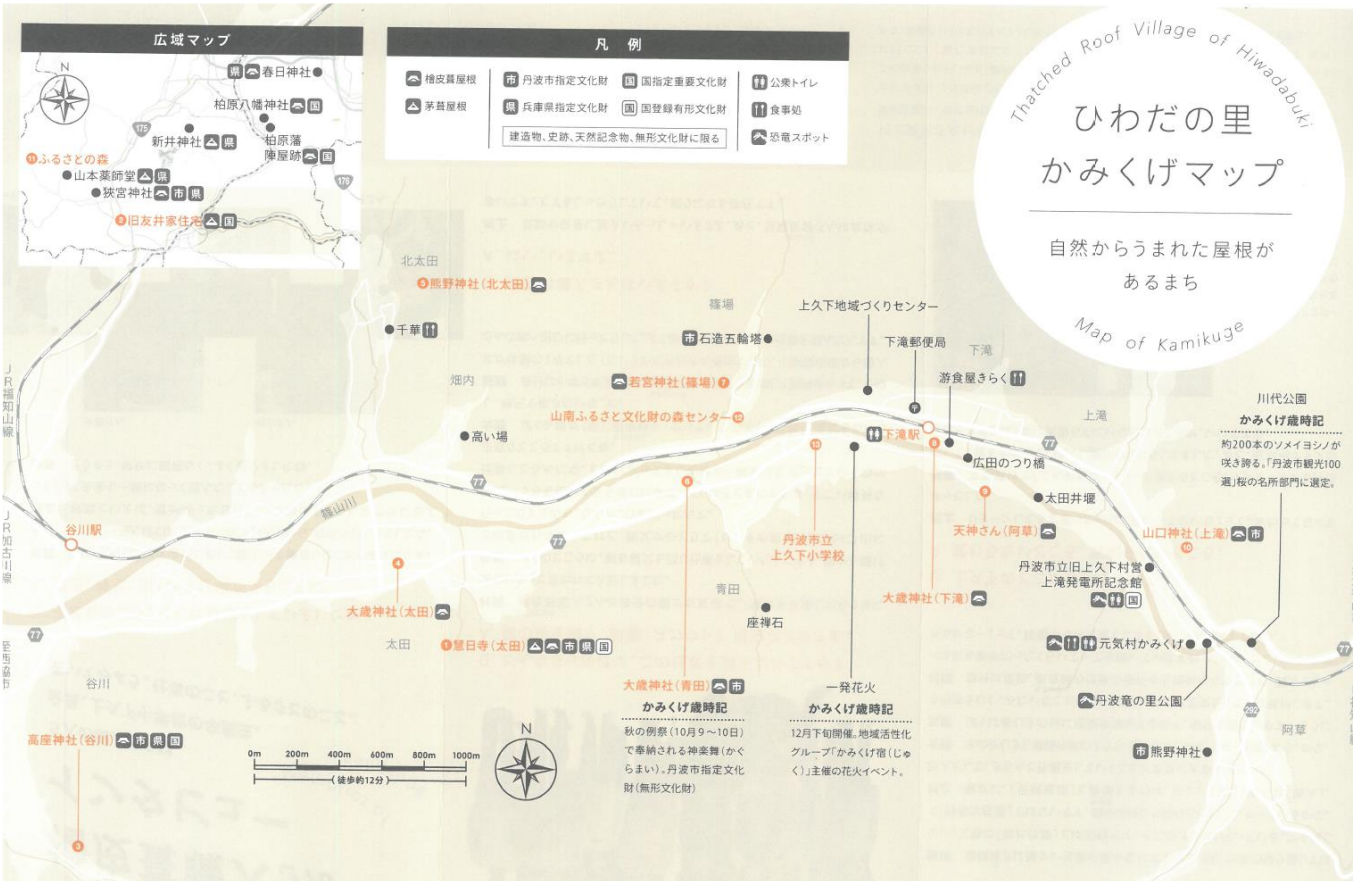


Thatched Roof Village of Hiwadabuki

ひわだの里 かみくげマップ

自然からうまれた屋根があるまち

Map of Kamikuge



みる　檜皮葺屋根や茅葺屋根のたてものが、ちいさなまちのあちこちに

慧日寺(太田)　[市指定文化財 建造物] 慧日寺山門
[県指定文化財 建造物] 慧日寺仏殿(附 棟札1枚)
[国登録有形文化財] 慧日寺方丈、慧日寺庫裏、慧日寺経蔵、慧日寺鐘楼、慧日寺裏門

旧友井家住宅　[国指定重要文化財 建造物]
※昭和52(1977)年、地区外へ移築再建

高座神社(谷川)　[市指定文化財 建造物] 高座神社石造鳥居
[県指定文化財 天然記念物] 高座神社のフジキ
[国指定重要文化財 建造物] 高座神社本殿(附 棟札8枚)

大歳神社(太田)

熊野神社(北太田)
※内部本殿は檜皮葺。通常は非公開。

大歳神社(青田)

若宮神社(篠場)

大歳神社(下滝)

天神さん(阿草)

山口神社(上滝)

ひとを育てる

若き職人を育てる育成拠点

MAP 11　ふるさとの森(原皮師養成)
MAP 12　山南ふるさと文化財の森センター

屋根をつくる

地域の中で／工房で、準備をすすめ全国の現場に出向く職人さんたち

原皮師(もとかわし)　材を採る　→　成型職人　材を整える　→　屋根葺職人(ふきしょくにん)　屋根を葺く

上久下の山など

地域の中の工房など

全国の神社やお寺

ひとに伝える

約20年つづく地域学習「檜皮葺(ひわだぶき)実習」

丹波市立上久下小学校

（2）丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム関連事業プロデュース業務

1）事業目的

恐竜化石フィールドミュージアム構想（2015．3）の策定以降、構想の実現に向けて多様なプログラムを実施し、恐竜化石を主コンテンツとしつつ、地域資源の利活用や参加者の拡大を目指してきた。

これら成果を活かし、平成 30 年を野外博物館（フィールドミュージアム）のオープンの年と位置付け、「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム・スタートアップミーティング～フィールドミュージアム最前線～」（平成 30 年３月４日）を開催した。

令和２年度は、これまでの成果を活かしつつフィールドミュージアムツアー（プログラム）などの取り組みを継続するとともに観光拠点等に PR 物を設置し、より広いエリアからの誘客を図ることを目的としている。

しかし、昨年度末よりの急速な拡散状況を見せている新型コロナウイルスに対し、拡散防止を踏まえたを対応を再検討することとなった。

2）支援内容

令和２年度の恐竜化石フィールドミュージアム推進事業の内容は以下の通りである。また、コロナ禍での対策を講じることとした。

①ティラノベンチ等の設置（新規）

多くの観光客が利用する道の駅「おばあちゃんの里」（丹波市）等に「ティラノベンチ」「総合案内看板」を設置し、ちーたんの館、太古の生きもの館などを含む川代ラインパークへの誘客につなげる。

（設置場所）西紀サービスエリア（実施主体：丹波県民局）

道の駅「丹波おばちゃんの里」（実施主体：丹波県民局、丹波市）

②出張化石発掘体験会（アウトリーチ事業）の実施（新規）

人と自然の博物館が認定した化石専門指導員等の人材を活用して、丹波地域内外の施設、イベント等で出張化石発掘体験会を実施し、野外博物館の魅力を伝える。

⇒コロナ禍の中、三密を避けるため人数制限や予約制にするなどの新型コロナウイルス感染防止策を講じたうえで実施することを基本とした。

（実施主体）フィールドミュージアム推進協議会

③ツアー等の開催

恐竜発見地を間近で観察できるとともに、関西では唯一恐竜化石等の発掘体験ができる地域であることを生かし、新たなツアーや講座の実施や人材の養成、ネットワーク化を進めて誘客につなげる。

ア）篠山層群（川代トンネル）の岩砕を利用した市民参加型発掘調査（太古のいきもの館）、剖出（化石クリーニング）体験、篠山層群露頭の見学・調査（宮田地区）、川代ラインパークを通過するサイクリストへの現地解説会など、他では体験できないような要素を組み合わせたツアーや講座を開発、実施する。（当初実施内容）

⇒コロナ禍の中、三密を避けるため時間帯で 1 か所に密集する形でのイベント形式を避けた取り組みを検討し、実施することとした。

（実施主体）フィールドミュージアム推進協議会

イ）化石専門指導員をネットワーク化するとともに、案内人（インタープリター）としてのノウハウやスキルアップを図り、上記ツアー等で活動することにより参加者の満足度を上げ付加価値を高める。

（実施主体）フィールドミュージアム推進協議会

3）プロデュース活動概要

- 4/3　FM805 収録（毎月 1 回）、第 2・4 木曜 19：00 放送（再放送：土曜 12：00）
- 4/21　フィールドミュージアム会議（今年度事業について）
- 4/28　フィールドミュージアム会議（丹波市ちーたんの館との協議）
- 5/19　フィールドミュージアム推進協議会監査
- 5/21　フィールドミュージアム会議（リモート対応について）
- 5/22　フィールドミュージアム会議（リモート対応について）
- 5/29　フィールドミュージアム会議（今年度事業について）
- 6/12　フィールドミュージアム会議（新規フィギュア制作について／徳川氏）
- 6/19　フィールドミュージアム会議（スタンプラリーについて）
- 6/24　フィールドミュージアム推進協議会 総会
- 7/2　恐竜関係機関連絡会議＊（県民局・丹波市・丹波篠山市・人博・森協会・推進協）
  ＊フィールドミュージアム全体会議①に位置付け
- 7/8　フィールドミュージアム会議（スタンプラリーについて）
- 7/16　フィールドミュージアム会議（今年度剖出体験について／太古の生きもの館）

・7/17　フィールドミュージアム会議（今年度体験事業について）
・7/22　フィールドミュージアム会議（スタンプラリーについて）
・7/28　化石専門指導員会議（出張化石発掘体験、研修会について）
・8/4　フィールドミュージアム会議（今年度剖出体験／リモートでの可能性について）
・8/5　フィールドミュージアム会議（スタンプラリーについて）
・8/19　フィールドミュージアム会議（スタンプラリーについて）
・8/30　出張化石発掘体験（一庫公園）
・9/18　フィールドミュージアム会議（スタンプラリーについて）
・9/19　たんば恐竜街道スタンプラリー開始（終了 11/29）
・9/19～10/3　化石専門指導員研修会（人博セミナー）全７回
・10/14　フィールドミュージアム全体会議②（今後の取り組みについて）
・10/18　出張化石発掘体験（尼崎の森中央緑地）
・10/24　出張化石発掘体験（丹波の森公苑／丹波の森フェスティバル）
・10/27　化石専門指導員研修会・視察（福井県立恐竜博物館、大野市化石発掘体験センターなど）
・11/8　出張化石発掘体験（舞子公園）
・11/15　出張化石発掘体験（一庫公園）
・11/24　フィールドミュージアム会議（オンライン講座について）
・12/5　出張化石発掘体験（国営明石海峡公園）
・12/13　出張化石発掘体験（恐竜化石体験学習（人博）／チルドレンズミュージアム）
・12/17　フィールドミュージアム全体会議③（今年度の事業報告と取り組みについて）
・1/21　リモート講座：解説ビデオ撮影について（人博、三枝先生）
・1/26　リモート講座：講座の構成について
・1/26　フィギュア検討（徳川広和氏、フェバリット小出氏）
・1/28　リモート講座ビデオ撮影（三枝先生：丹波竜発見地、ちーたんの館）
・2/12　リモート講座：講座の構成、シナリオについて
・2/12　リモート講座：講座の構成、シナリオについて
・2/16　リモート講座：講座の構成、ユーチューブ配信等について（太古の生きもの館）
・3/11　舞鶴自動車道西紀サービスエリアに恐竜ベンチ設置（２基／上り下り）
・3/16　フィールドミュージアム全体会議④（今年度事業の取り組みについて）
・3/20　リモート講座テスト（ユーチューブ配信、三枝先生、奥岸技師）

（資料編「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム関連業務プロデュース業務報告書」参照）

2　受託事業

2-1　丹波地域の花と緑の啓発イベント開催業務（丹波県民局丹波土木事務所）

（1）開催趣旨

丹波地域の花と緑の美しい地域づくり活動の普及啓発を図るため、丹波地域の住民団体が参加する「丹波の森ミニガーデン」の制作・展示イベントである。

丹波の森ミニガーデンは、花と緑の美しい地域づくり活動の普及啓発することを目的とし、丹波の森づくりの一翼を担ってきた身近な庭を花で彩り地域を活性化するたんばオープンガーデンなどとともに、丹波地域の住民団体が主体となる市民参加型のイベントである。

制作にあたっては、参加者の募集を行い、オープンガーデン参加者や花づくり愛好家グループ、また高校生や中学生の皆さんに参加していただき、丹波の森公苑のほか、丹波並木道中央公園、道の駅丹波おばあちゃんの里、道の駅あおがきの 4 か所で開催した。

丹波の森公苑（4 庭）

丹波並木道中央公園（2 庭）

道の駅丹波おばあちゃんの里（2 庭）

道の駅あおがき（2 庭）

（2）ミニガーデン制作募集内容

1）イベント内容

令和２年 10 月３日（土）から 11 月１日（日）まで、約１か月間、丹波の森公苑のほか、丹波並木道中央公園、道の駅丹波おばあちゃんの里、道の駅あおがきの 4 か所で、「丹波の森ミニガーデン展」（10 庭）を開催しました。

【開催場所・庭数】

- 丹波の森公苑（丹波市柏原町柏原）：４庭
- 丹波並木道中央公園（丹波篠山市西古佐）：２庭
- 道の駅丹波おばあちゃんの里（丹波市春日町七日市）：２庭
- 道の駅あおがき（丹波市青垣町西芦田）：２庭　　計 10 庭

2）スケジュール等

- 募集期間　　８月１日（土）～8 月 31 日（月）
- 制作期間　　９月 30 日（水）～10 月２日（金）
- 展示期間　　10 月３日（土）～11 月１日（日）

3）募集要項

- 対　　象　花緑団体、学校や会社の園芸クラブ、自治会など
- 内　　容　まちなみを彩る花壇やコンテナ等を活用したミニガーデン（10 庭）
- 規 模 等　2.3m（幅）×1.5m（奥行）の木枠区画内に納まる大きさ
  （木枠の高さは約 20cm、木枠内は真砂土約 15cm 厚程度を搬入）
  ミニガーデン出展者に対し、１区画当たり３万円を上限として材料費を助成
  募集は 10 枠（応募多数の場合は抽選）

4）展示までのスケジュール

①制作説明：９月 15 日（火）　13：30～
②花壇枠設置工事：９月 23 日（水）～９月 26 日（土）　予備日：９月 27、28 日
③植栽・花苗植付：９月 30 日（水）～10 月２日（金）　※９月 28、29 日植栽可能
④展示期間：10 月３日（土）～11 月１日（日）
⑤花苗等持ち帰り：11 月２日（月）～11 月４日（水）　※土（真砂土）も持ち帰り可
⑥花壇枠撤去処分：11 月５日（木）～11 月 10 日（火）　※業者による撤去

5）植栽デザイン、紹介ボード

- 植栽デザイン用シート配布（2 種類）：縮尺 1/10（図上１cm が実長 10cm）
- 紹介ボードの設置：制作趣旨や思い、メッセージ、主な植物等を記入した紹介ボードを設置　　※ミニガーデン花壇枠に設置

（資料編「丹波地域の花と緑の啓発イベント開催業務報告書」参照）

２－２　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務（実施計画および中長期計画策定支援）　（丹波の森里山づくり促進事業実行委員会）

（1）業務の目的

丹波地域の美しい里山を次の世代へと繋いでいくため、里山づくり活動団体が森林整備にかかる問題点や課題を整理し、里山づくり計画を策定し、地域に根ざした息の長い取り組みとなるよう支援体制を構築するための基礎資料を作成することを目的とする。

（2）業務内容

１）里山づくり協議会の設置

・選定された下表の里山づくり活動団体（以下、活動団体）については、里山づくりアドバイザー（以下、アドバイザー）の支援を受けながら持続的に活動が可能な体制になるよう、各活動団体が運営する「里山づくり協議会（以下、協議会）」を設置する。

・協議会を構成するメンバーは活動団体、アドバイザーのほか、（公財）兵庫丹波の森協会丹波の森研究所、活動地所在市（丹波篠山市、丹波市）の担当課、丹波農林振興事務所　等とし、（公財）兵庫丹波の森協会（丹波の森研究所）はコーディネーターとして協議会への助言、支援を行う。

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体（令和元年度選定）

活 動 団 体	主な活動地域
① ふるさと和田里山づくり協会	丹波市山南町和田
② 上板井自治会	丹波篠山市上板井
③ 岩崎自治会	丹波篠山市岩崎
④ 八幡共有山組合	丹波篠山市大沢

２）里山づくりアドバイザー業務

①「里山づくり３０年計画」の策定

前年度の基礎調査内容の再確認を行い、それに基づき「里山づくり３０年計画」を策定する。その計画に基づき、それを実現するための次年度以降のアクションプランを立てる。

「里山づくり３０年計画」とアクションプランの策定に当たっては、ワークショップ形式で策定作業を進め、参加者の意識共有ができるように支援するとともに、その内容を取りまとめる。

②「里山づくり３０年計画」実現のための課題整理

協議会、現場活動等に参加して、活動における問題点（安全管理、必要機材や道具、人

材育成、地域連携等）を把握する。

令和元年度採択された４地区については、「里山づくり３０年計画」策定のためのワークショップを実施し、現況および課題の整理を行い、その内容を取りまとめる。

年度末に、今年度の活動を振り返って、今後の中長期の活動計画について考えるワークショップ（拡大里山づくりアドバイザー会議）を開催し、その内容を取りまとめる。

（資料編「令和２年度 丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務
（実施計画および中長期計画策定支援）」報告書参照）

活動計画調整会議（ふるさと和田里山づくり協会）

シイタケ植菌作業（上板井自治会）

里山づくりワークショップ（八幡共有山組合）

里山づくりワークショップ（岩崎自治会）

２－３　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務（活動評価、計画調整および情報発信支援）　（丹波の森里山づくり促進事業実行委員会）

（1）業務の目的

丹波地域の美しい里山を次の世代へと繋いでいくため、里山づくり活動団体が森林整備にかかる問題点や課題を整理し、里山づくり計画を策定し、地域に根ざした息の長い取り組みとなるよう支援体制を構築するための基礎資料を作成することを目的とする。

（2）業務内容

１）里山づくり協議会運営の支援

・平成３０年度から活動を実施している下表の活動団体について里山づくりアドバイザーによる支援を行い、活動団体が運営する「里山づくり協議会」を支援する。

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体（平成３０年度選定）

活 動 団 体	主な活動地域
生郷里山づくり懇話会	丹波市氷上町
北岡本自治会	丹波市市島町
下三井庄自治会	丹波市春日町
ごんげん里山（特定非営利活動法人バイオマスフォーラム丹波）	丹波市氷上町
平松区森林愛好会	丹波市春日町
森の学び舎プロジェクト（特定非営利活動法人バイオマス丹波篠山）	丹波篠山市

２）里山づくり活動の支援

・活動団体の協議会や現場活動等に参加して運営の支援を行うとともに、活動における課題（整備後の里山の状態のモニタリングや作業の安全管理、必要資機材、人材育成、地域連携等）を活動団体と共に把握し、活動の振り返りのワークショップを通じ、短期的、中長期的な計画の 調整をサポートする。

・調整した計画に基づく次年度以降の活動の計画や体制整備について、活動団体を支援する。

・アドバイザーは、別の委託業務「森のかわら版」の制作にかかる現地取材について、活動団体が実施する里山づくり活動をＰＲする機会に協力する。

３）業務報告

・年度末に今年度の活動を振り返って、活動団体との協議や現場活動等の支援内容について里山づくりアドバイザーからの報告を受け、その内容を取りまとめる。

遊歩道づくり（生郷里山づくり懇話会）

竹林整備（平松区森林愛好会）

薪づくり（北岡本自治会）

遊歩道づくり（NPO バイオマス丹波篠山）

森あそび（NPO バイオマスフォーラム丹波）

薪づくり（下三井庄）

（資料編「丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務」報告書参照）

２－４　丹波地域における移住および二地域居住等現状分析業務

（1）業務目的

今般のコロナ禍において、豊かな自然のある地域で過ごしたいという地方回帰の流れが強まる中、都市近郊にありながら、日本の原風景と言える田園空間やブランド農産物、集落に残る複数の古民家等の地域資源を有する丹波地域において、移住や二地域居住の更なる推進を図るうえで必要となる地域の状況を把握するため、移住および二地域居住促進の現状や今後の可能性等について調査分析を行なう。

（2）業務内容

①丹波地域への人の動きの把握（移住的側面、観光的側面）

②移住および二地域居住者へのヒアリング調査

③移住および二地域居住促進に向けたネットワーク構築のための分析

（3）調査の進め方

丹波地域の二地域居住の現状を分析するにあたり、以下の点を整理し調査分析を進めることとした。

・丹波篠山市と丹波市とは都市部等との距離的立地が異なる点を考慮すること

・「二地域居住」が目的化するのではなく、丹波地域の将来像を描くなかで、その実現のための手段・ツールとなるべきもの

・二地域居住を広義の視点で捉える必要がある

⇒観光・宿泊という側面で見ると、既に丹波篠山市は成功事例となっている点を考慮

⇒観光という側面は、目指すべき将来像（ 移住定住など）を考慮

上記の点を踏まえ、

①「具体的な数字」で、丹波地域の二地域居住の現状を分析

・丹波地域内外への人の動き…移住的側面、観光的側面

②二地域居住のキーマン（ 地域コンシェルジュ的）を抽出し、ヒアリングを行う。

③キーマンと地域及び地域住民、また他のキーマンとの関係性を図式化（見える化）する。

・関係相関図の作成

（資料編「丹波地域における移住および二地域居住等現状分析業務実績報告書」参照）

資　料　編

----- 令和２年度受託事業等報告書 -----

１　　集落の再生・活性化方策の検討

２　　丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム関連業務プロデュース業務

３　　丹波地域の花と緑の啓発イベント開催業務

４　　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務
（実施計画および中長期計画策定支援）

５　　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務
（活動評価、計画調整および情報発信支援）

６　　丹波地域における移住および二地域居住等現状分析業務